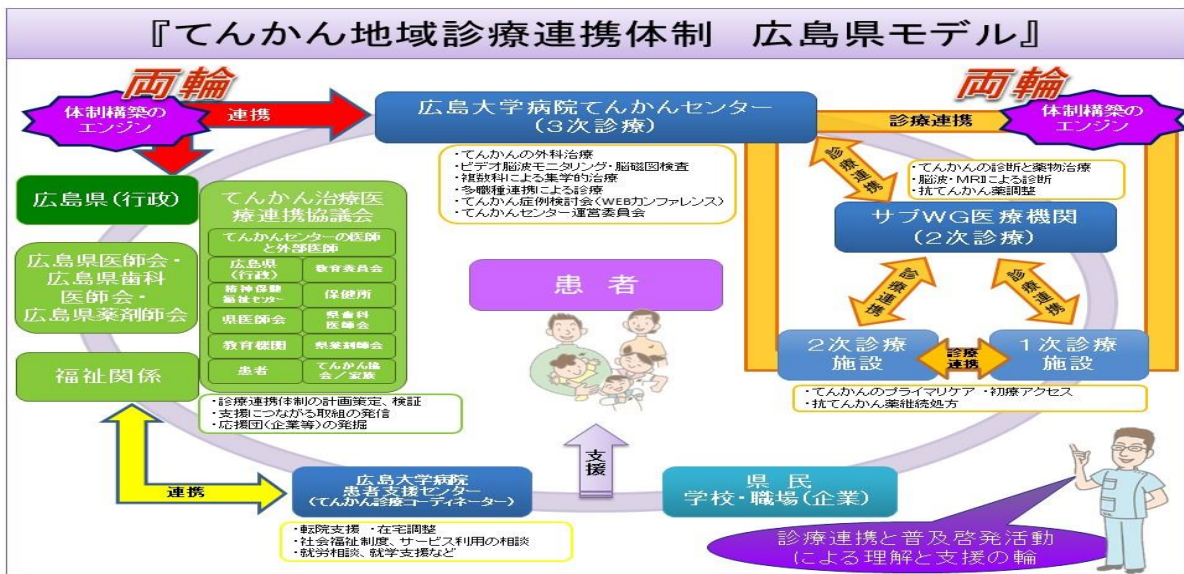


25. 広島県てんかん地域診療連携体制整備事業（2024年度）

広島大学病院てんかんセンター 飯田 幸治

広島大学病院（広島県指定てんかん支援拠点病院）では

- てんかん治療医療連携協議会およびサブワーキンググループを設置し、引き続き診療連携体制の構築について検討を行っている。また、事業効果の検証として、広島大学病院において指標に基づくてんかん患者調査を継続して行っている。
- 研修・普及啓発活動では、教育関係者向け研修会（特別支援学校教職員向け）7回、医療従事者向け研修会1回の計8回開催し、てんかん疾患の正しい知識や最新情報の伝達、てんかん診療の質の向上および啓発を図った。令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことにより、現地開催が主体となったが、オンライン併催のハイブリッド形式で開催したセミナーでは全国から参加者があり、広島県の活動を全国的に周知することができた。また、コロナ禍により中止となっていたJリーグサッカーチームのサンフレッチェ広島（チームカラーが紫）と広島大学病院てんかんセンターとのコラボレーション企画が5年ぶりに開催され、多くのサポーターにてんかんに対する理解をもらい、てんかん患者さんが過ごしやすい社会の実現を目指している。（コラボの様子は広島大学病院てんかんセンターホームページにて紹介している。）
- 本事業推進の方向性を分かりやすく周知するために「広島県モデル」を作成し実施している。このモデルの特徴は、広島県（行政）と医療機関（特にサブワーキンググループ医療機関（2次診療））を体制構築のエンジンとして、患者を中心にこの両輪で多職種連携を回している点である。



- 広島県循環器病対策推進協議会における部会（広島県循環器病相談支援・情報提供推進部会）と協力し、脳卒中後遺症（主に脳卒中後てんかん）の患者支援をすすめるとともに、広島県循環器病（脳卒中・心血管疾患）情報サポートサイトHPに広島大学病院てんかんセンターのURLをリンクし本事業の案内を行っている。またR5.11.19開催の広島市のてんかん市民フォーラムでは、特別企画として同部会会長の中国労災病院治療就労両立支援センターの豊田章宏先生から脳卒中後の社会復帰・就労について、さらに広島県健康福祉局健康づくり推進課の山下十喜課長から広島県の循環器病対策についての案内を行っており、今後は、本整備事業の担当課である、広島県健康福祉局医療介護基盤課と連携しながら疾患啓発をすすめていくこととしている。

1. 活動報告

1) てんかん治療医療連携協議会

てんかん治療医療連携協議会では事業計画の策定、事業効果の検証などを行っている。

委員数：16名

構成：医師5名（広島大学病院医師4名、外部医師1名）、医師会1名、歯科医師会1名、薬剤師会1名、てんかん患者1名、てんかん患者の家族1名、行政関係者5名、医療福祉大学関係者1名

開催回数：2回（R6/5/8, WEB併催, R7/3/26WEB併催予

2) てんかん治療医療連携協議会サブワーキンググループ
サブワーキンググループでは WEB カンファレンスでの症例検討、連携体制の仕組作りの検討を行っている。

委員数：13名

構成：広島大学病院医師4名，2次診療施設（全保健医療圏の中核となる医療機関）9名

開催回数：2回（R6/6/21 WEB 併催，R7/2/12 WEB 併催）



3) 遠隔てんかん症例検討会

広島大学病院てんかん症例検討会では，てんかんセンターの複数診療科の医師と看護部，薬剤部，診療支援部，および臨床研究開発支援センターなど組織横断的に人員が参加して，症例検討，治療方針の決定を行っている。

症例検討会は WEB 会議システム（Zoom）を利用して遠隔カンファレンスで行っており，サブワーキンググループ医療機関のみならず県内外の医療機関からの参加があり，広島大学病院との間で症例発表，検討を行うことで，てんかん診療のレベルアップとてんかん診療ネットワークの構築を図っている。

（R6/4月～R7/2月開催分）

参加人数：計314名（広島大学病院143名，サブWG医療機関108名，その他医療機関63名）

症例提示数：28症例

4) 研修会

① 教育関係者向け研修会

・てんかんを持つ児童の教育現場（特別支援学校）において，てんかん発作への適切な対応や最新治療法の情報共有を行うため，広島県内の特別支援学校にて研修会を開催した。

開催回数7回 参加人数：計534名

② 医療従事者向け研修会

・医師，臨床検査技師を対象とした「広島てんかん脳波セミナー（HEES）」を開催し，脳波判読技術のレベルアップとてんかん診断の質の向上を図った。

開催回数：1回（LIVE 同時配信）参加人数：218名（内来場43名 LIVE 視聴175名）

<研修会開催一覧>

教育関係者向け研修会				
開催日	研修会名	場所	研修内容	参加人数
R6. 7. 23	特別支援学校での研修講演学習会	広島県立呉南北特別支援学校	小児のてんかん～検査から診断・日常生活での留意点～	61名
R6. 7. 24		広島県立三原特別支援学校	てんかんの分類と症状・発作対応について	44名
R6. 7. 24		広島県立広島特別支援学校	てんかんに関する理解と支援～てんかん発作の見方・対応の仕方～	122名
R6. 7. 31		広島県立広島北特別支援学校	てんかんに関する理解と支援～てんかん発作の見方・対応の仕方～	90名
R6. 8. 21		広島県立黒瀬特別支援学校	てんかんに関する理解と支援～てんかん発作の見方・対応の仕方～	56名
R6. 8. 26		広島県立廿日市特別支援学校	小児のてんかん～検査から診断・日常生活での留意点～	100名
R6. 8. 27		広島県立呉特別支援学校	小児のてんかん～検査から診断・日常生活での留意点～	61名
医療従事者向け研修会				
R6. 9. 21	広島てんかん脳波セミナー（HEES）	広島県医師会館	てんかん学の講義，脳波判読の基本	来場43名 LIVE 175名

特別支援学校におけるてんかんセミナーアンケート調査（2024年度）

【調査目的】

広島大学病院はてんかん地域診療連携体制整備事業の活動として、てんかんに関する正しい知識・理解の普及啓発を行うことを目的に、広島県内の特別支援学校教職員を対象としたてんかんセミナーを実施してきた。本事業開始の2015年度より今年度までに、広島県内ほぼ全ての特別支援学校においててんかんセミナーを実施、てんかん疾患の基礎知識、発作への適切な対応方法、最新治療法等を紹介している。また、2022年度からアンケート調査でセミナー参加者の意見やニーズを把握しており、今年度も引き続きアンケート調査を実施した。

【調査方法】

広島県立特別支援学校7校において、2024年7月23日～8月27日までに実施したてんかんセミナー参加者（特別支援学校教職員）を対象に、別紙質問事項1～12について、オンラインまたは調査用紙を用いてアンケートを実施。

【調査結果】

セミナー参加者534名中、363名から回答を得られ、集計・分析を行った。

	合計	呉南	三原	広島	広島北	黒瀬	廿日市	呉
参加人数	534	61	44	122	90	56	100	61
回答数	363	33	29	89	60	37	57	58
回答率	68%	54%	66%	73%	67%	66%	57%	95%

（質問1）参加者の職業・・・養護教諭2%、教諭91%、管理職3%、看護師1%、その他（栄養教諭等）3%

（質問2）参加者の62%はこれまでにてんかんセミナーを受講したことがある、38%は初めての受講

（質問3）学校でてんかん患者の生徒に接する機会は、毎日45%、時々33%、ない22%

（質問4）参加者のうち約半数の45%は学校でてんかん発作に出会って困ったことがある、24%は困ったことがない（対応できる）という回答。一方、3割弱の31%は学校でてんかん発作に出あったことがないという回答。

（質問5）てんかん疾患についてどの程度知っているかは、よく知っている2%、ある程度知っている75%、よく知らない23%

（質問6）てんかんセミナーで学びたい内容は、多いものから順に、発作への対応方法28%、てんかん疾患の基礎知識15%、発作の種類15%、抗てんかん薬について14%、小児のてんかん12%で、学校での発作対応や発作の種類、てんかん疾患の基本的な知識、抗てんかん薬について学びたいという回答

（質問7）セミナー内容の分かりやすさについて、非常に分かりやすかった41%、分かりやすかった45%をあわせて86%が分かりやすかったという回答であった

（質問8）満足度は、大変満足46%、満足40%、普通12%、あまり満足できなかった1%であった。

（質問9）今後もてんかんセミナーを受講したいかは、ぜひ受講したい46%、機会があれば受講したい53%、受講したくない1%であった。

（質問10）このようなセミナーが必要と思うかという質問に対して、363名中359名が必要と回答しており、必要な理由は、多いものから順に、特別支援学校で働くうえで必要不可欠17%、発作を起こした生徒に適切に対応する為17%、基礎知識を知るため14%、てんかんの生徒に接する機会があるため13%、専門医から学べる機会だから11%、最新の情報を知るため10%、疾患理解につながる9%、定期的に研修を受ける事で知識が定着できる9%であった。

（質問11）もしご自身や家族の方に、てんかんかもしれない症状があった場合にどうするかという質問では、約半数の49%が地域かかりつけ医を受診、次いで、受診先をインターネットで探す25%、まずは総合病院を受診19%、受診せず経過をみる3%、わからない2%、その他2%（救急車を呼ぶ、広島大学病院を受診等）

（質問12）セミナーで最も勉強になった点は、発作種類・対応方法に関する回答が最も多く、次いで、発作症状や対応方法の動画、最新の治療薬について、疾患の基礎知識、治療法・手術についてが多かった。

（検討が必要と思われる意見・要望等）

普段からぼーっとして呼びかけに反応できない児童もいるので発作（欠伸発作等）が起きているかどうか判断が難しいときがある。

てんかんを持つ生徒の保護者理解が薄いなど感じることもある。

薬の飲み忘れについて、あまり危機感を感じていない保護者がいる。
研修会の前に事前に相談内容をアンケートに取って質疑応答の時間をもう少し増やしてほしい。

【考察】

てんかん患者の児童・生徒が多く在籍する特別支援学校では、日々てんかんを持つ児童・生徒に接する機会があるため、発作を起こした生徒に適切な対応ができるよう知識の習得が必要だと考える教職員が多く、最新の情報を得るため、知識の再確認をするために定期的にセミナーを受講したいという意見が多かった。また、参加者の約8割はてんかん疾患について、よく、またはある程度知っているという回答であったが、一方で約半数は学校でてんかん発作に出会って困ったことがあると回答しており、てんかん疾患の知識を持つ教職員は多いものの、実際に発作対応で困ったことがある教職員が多くいることが明らかになった。さらに、3割弱は学校で発作に出会ったことがないと回答しており、てんかんセミナーが必要だと思う理由からも、特別支援学校におけるてんかんセミナーの必要性・重要性は高いと考えられる。

セミナー内容の満足度は概ね高く、最も勉強になった点としては、学校現場で必要とされる発作時の対応方法や発作種類、最新の治療薬や治療法、基礎知識などが多く、特に発作症状や対応方法は、映像を見ることで言葉だけの説明よりイメージしやすく分かりやすかったという意見が多くあった。また、てんかんは誰もがなりうる疾患であることが勉強になったという回答もあり、てんかんへの正しい理解にもつながったと考えられる。

研修会内の質疑応答時間を増やしてほしいという要望もあり、学校側に事前に質問事項を提示してもらい、その質問に対して講師に回答してもらうよう今後検討したい。

【結論】

本調査結果から、今回のてんかんセミナーは、学校現場において必要とされる発作時の対応や発作種類など実践的な内容や最新の治療薬・治療法など最新の情報を紹介するとともに、疾患への正しい理解や啓発にもつながるセミナーであったことが示された。特別支援学校の教職員にとっててんかんセミナーの受講は必要不可欠であり、参加者の約半数は複数回の受講歴があり定期的にセミナーを受講する事で知識を定着させることの重要性も示された。本調査結果を参考に今後の研修会の充実を図りたい。

【2023年度との比較】

2023年時との比較では、各質問項目の比率には概ね変化はなかった。昨年度の比較（2022年度と2023年度との比較）では、質問10 セミナーの必要性、特にその理由についての項目の内、発作を起こした生徒に適切に対応するため、が低下し、逆に、特別支援学校で働く上で必要不可欠、とするもの、は上昇していた。今回の比較ではこれらの内訳の比率には大きな変化は認められなかった。発作時の対応や各支援学校におけるてんかん理解の重要性の認識が深まり、継続していることを反映していると思われるが、特筆すべきは、この質問10で、必要と認知されているのは経年的にほぼ100%となっており、すでに長年セミナーを行っているものの、今後の継続はやはり必要だということの再認識につながるものと考えられた。

5) 普及啓発活動

①市民フォーラムの開催

・広島市にて「第47回日本てんかん外科学会開催記念 てんかん市民フォーラム」と題して市民フォーラムを開催した。

(R6.6.23開催 来場100名)

本フォーラムは、令和6年2月1日～2月2日に開催された第47回日本てんかん外科学会開催記念として、てんかんへの理解を深め、最新の治療法を知ってもらい、患者さんが充実した日常生活を送るための情報を提供することを目的に開催された。

・広島市にて「市民フォーラム2024 てんかんを考える てんかんと診断されたら」と題して市民フォーラムを開催した。

(R6.12.15開催 来場141名)

本フォーラムでは、どの年代層でも起こりうるてんかんを発症してしまった場合にどうするか、小児期でのてんかんの特徴や治療、社会生活での注意事項（保育園は？小学校は？通学は？薬は？）について 大人の場合の社会生活での注意事項（就労は？運転は？手術は？）、福祉制度、最新の



技術についてなど、患者さんそれぞれのライフステージに合わせて解決すべき課題について講演した。

質疑応答時間も増やし、できるだけ多くの方からの質問に答えた。

- ・尾道市にて「市民フォーラム2025 てんかんを考えるin尾道」と題して市民フォーラムを開催予定。(R7. 3. 2)

本フォーラムは広島市にて開催された(R6. 12. 15 開催)市民フォーラムの内容を2次医療圏尾道市でも開催する予定である。

携協協会およびサブワーキンググループの際に資料として提示し、今後の活動の参考としている。

開催回数：広島市2回(R6/6/23、12/15) 来場参加人数計：241名

開催回数：尾道市1回(R7/3/2開催予定)

②J1リーグサンフレッチェ広島とのコラボレーション

活啓発動として、コロナ渦で中止となつて以来、5年ぶりとなつたてんかん疾患啓発活動第8弾を開催した。紫をチームカラーとするサンフレッチェ広島と広島大学病院(てんかんセンター)がコラボレーションし、世界的な啓発の日「パープルデー」(3月26日)に近い日程で開催をしてきたが、サンフレッチェ広島の新スタジアム開業に伴い、12月の開催となった。

サンフレッチェ広島のマスコットをあしらった缶バッジ3000個、てんかん疾患を説明するチラシ3000部を、医療関係者やてんかん協会のメンバー等60名余りの参加者に配布していただいた。

サンフレッチェ広島と広島大学病院(広島県がてんかん支援拠点病院に指定)がコラボレーションすることで多くのサポーターにてんかんに対する正しい理解をもってもらい、てんかん患者さんが過ごしやすい社会の実現を目指している。

※紫は世界的なてんかん疾患啓発活動である「パープルデー(Purple Day)」のイメージカラーで、ラベンダーのパープル(紫)がてんかんの国際的イメージであったことからパープルデーと名付けられている。

6) 事業の効果の検証(てんかん患者調査)

【目的】地域のかかりつけ医(一次診療)から、専門医(二次診療)、地域診療において中核を担う三次診療施設の三者が連携し、患者が適切にてんかん診療を受けられるよう「てんかん診療ネットワーク」の構築を目的として、広島大学病院において患者調査を実施し、診療状況、患者の受診のながれの把握・分析を行った。

【調査対象期間】

2015年(平成27年)12月~2024年(令和6年)12月初診分(9年1ヶ月)

【調査対象患者】

てんかん病名(ICD10コード:G40、G41)がついた初診患者

*抗てんかん薬予防的投与は対象外

【調査方法】

事業評価の指標の項目について、広島大学病院において診療録を調査し集計を行った。

【調査患者数】 2,669人

【調査結果】

(1) 初診目的について

広島大学病院を受診する患者の初診目的は、てんかん診断42%、薬物調整28%、難治性6%、手術目的7%、症候性3%と、てんかん診断目的で紹介される患者が最も多かった。

市民フォーラム 2024
てんかんを考える
てんかんと診断されたら? - 暮らしから最新治療まで -
2024 12/15 (日)
13:30-16:00 (開場13:00)
参加費 無料 定員 300名
13:30-13:40 開会挨拶
13:40-14:15 講演1
14:15-14:50 講演2
14:50-15:00 休憩
15:00-15:15 ディスカッション+質疑応答
15:15-16:00 閉会挨拶

市民フォーラム 2025
てんかんを考える in尾道
2025 3/2 (日)
13:30-16:00
参加費 無料 定員 50名
13:30-13:40 開会挨拶
13:40-14:15 講演1
14:15-14:50 講演2
14:50-15:00 休憩
15:00-15:15 ディスカッション+質疑応答
15:15-16:00 閉会挨拶

世界に広がる「てんかん」啓発キャンペーン
PURPLE DAY
パープルデーとは?
SANFRECCHE × 広島大学病院てんかんセンター

(2) 治療期間について

広島大学病院での治療を経て当院から他の医療機関へつないだ(紹介した)が割合が49%で最も多く、次いで治療終了(てんかん診断にいたらず)19%、薬物調整等を行い治療中(主たる病院)18%であった。他院へつないだ(紹介した)医療機関は、紹介元へ返した場合が46%、紹介元以外の医療機関へ紹介した場合が54%であった。

また、他院へつないだ(紹介した)医療機関を一次・二次診療別でみると、一次診療が51%、サブWG(二次診療)が23%、二次診療が7%、その他県外の医療機関への紹介が19%であった。

(3) てんかんセンターへの相談について(※てんかん診療支援コーディネーターが受けた相談含む) てんかんセンターへの相談は1,556件あった。

相談方法としては訪問6%、電話による相談9%、地域連携室経由で他の医療機関からの紹介(FAX)が84%であった。相談への対応としては、受診した場合が78%、広島大学病院では予約が取れないため他院へ紹介し受診につなげた場合が9%、相談のみで受診につながらなかった場合が9%であった。

(4) 紹介元医療機関について

広島大学病院への患者の紹介元医療機関を県別でみると、広島県内からの紹介が60%、広島県を除く中国・四国地方からの紹介が11%、中国・四国地方以外からの紹介が5%であった。

また、一次・二次診療別では、一次診療からの紹介が41%、サブWG(二次診療)からの紹介が28%、サブWG以外の二次診療からの紹介が10%であった。

(5) 広島大学病院での開始3ヶ月と直近3カ月の調査結果の比較について

開始3ヶ月：2015年(平成27年)12月1日～2016年(平成28年)2月29日 83人

直近3ヶ月：2024年(令和6年)10月1日～2024年(令和6年)12月31日 75人

初診目的で、薬物調整の割合が4%から12%へ増加した。

治療期間別で、他の医療機関へつないだ(紹介した)割合が8%から28%へ増加、主たる病院として治療中の割合が77%から47%に減少、従たる病院として治療中の割合が9%から12%へ増加した。(※従たる病院とは、紹介元で薬物調整を行い広島大学病院へは定期的に通院している状況)

【考察】

本調査の結果から、広島大学病院での初診目的では「てんかん診断」の割合が最も多いが、開始3か月と直近3ヶ月のデータを比較すると、広島大学病院を受診する初診目的では「薬物調整」の割合が増加、また、広島大学病院から他の医療機関へつないだ割合が増加していることから、広島大学病院がてんかん診療拠点としての役割を担い、広島大学病院での治療を経て紹介元や他院へ紹介し日常の治療はかかりつけ医で行い、広島大学病院(三次診療)では定期的にフォローし、患者に適切な診療を提供するてんかん診療ネットワークの構築が進んでいると考えられる。一方、三次診療施設としての役割りである、てんかん外科(手術)目的の患者割合の増加は乏しく、難治例の紹介とあわせてもあきらかな増加は認められていないことから、てんかんセンターとして三次診療施設の役割りに特化していくという方向性は、現時点では行えていない。

今後の課題としては、広島大学病院への紹介では一次診療からの紹介が多く、初診目的でも「てんかん診断」の割合がまだ高いという現状がある。前述のように三次施設への特化ではなく、広島大学病院は二次診療の役割も分担していると言えるため、引き続き、二次診療施設への普及啓発継続と、一次診療施設への連携拡大、更なる診療ネットワークの構築が必要と考えられる。